

図書館においてある本の中から
おすすめのものを選びました。
バラエティに富んだ本を紹介します。

「ながしまのまんげつ」

原作 林家彦いち

町立 鷹巣図書館

TEL0996-86-1111



創作落語からうまれた絵本。黒之瀬戸大橋がかかるとまへのながしまのおはなしです。一度、読んでみませんか？

町立 指江図書館

TEL0996-88-6500



現役住職が書いた珠玉の読み切り短編小説です。

「お坊さんがくれた拭いても拭いても涙がこぼれるお話」

著 浅田宗一郎

Pick Up publication

長島文芸

Nagashima Bungaku
ながしまぶんげい

明神俳句会

田水沸く父は生涯一農夫
淵脇 護
 躑二つもつれて夫の墓の前
二階堂恵子
 嬰寝まり風船自由を取り戻す
筑前 初市
 霜髪のわらべとなりぬ零余子飯
白男川孝仁
 木下闇防空壕の穴二つ
大堂 正弘
 咀嚼として体力の要る大暑かな
迫口 君代
 古家の井戸もそのまま木下闇
関 佳代美
 菜園に蝶を飛ばせて無農薬
大堂 早苗
 夏蝶の渦たちのぼる黒之瀬戸
坂口 静子
 黒揚羽バイク一瞬かわし去る
大堂 光幸
 でで虫や煩惱の歩を残しをり
山田 哲夫
 産声の命の力夏の昼
山寄加代子

創生短歌会

東風吹けば潮の匂いのわずかしてほてる厨房に風の入り来る
竹之内重信
 蟻幾匹虫を引きゆく道の辺を手をぶらさげて我は歩めり
石原百合子
 買わなくてならぬものなど何ひとつなければ店の品に触れみる
野村 益信
 売り声はいつもの時刻この里に軽トラック来る魚を積みて
大塚 洋子
 ご先祖の位牌を下げて磨きおり朝の仏間に風を入れつつ
宮元 司
 瓜畑に陽のあたりいて敷きつめし藁が時折はじける音す
村上 義彦
 夏の日に焼けて増々老いしるき顔が鏡の中に苦笑す
山下 学

長島短歌会

相次ぎて逝きし夫婦の新盆は一入寂し墓の灯明
坂之下典子
 せせらぎの音優しけれ川の辺に数多の芙蓉花咲き
あまた
初むる
中山タマエ
 漁火の遠くかすかに灯る夜は亡き友想ひ寂しさ募
濱田美代子
 百日紅の紅花枝にふくらみて夕べの風にひと時揺らぐ
浜畑 松枝
 太陽が放つ灼熱の光浴び蒲団干しをり汗かきながら
松元 睦子
 お盆三が日御膳と焼酎供へつつ語りて亡夫の声を偲びぬ
市尾 操
 薄雲に覆はれ月は高く見ゆ流星待てど星影淡し
岩下 ち江
 鮮やかな花供へある盆の墓は日の暮るるまで香煙漂ふ
岩下 房代
 「荒城の月」合唱祭に胸つまる震災受けぬし熊本城想ふ
樫平 頼子
 銀座なるビルの屋上に養はれ百トンの蜂蜜出荷せしとぞ
米尾 和子

一般作品

「短歌」
幼子の毛筆ちからみごとほめわれはまだまだこれからまなび
中飯屋辰子
 声そろえ天草灘に陽は映えて歌いし友らいづこで生きん
小林 貢
 七年の長きに耐えて今ぞ鳴く雄は良けれど雌は鳴かざり
小林 繁
 生ビールうまきこの夏過ぎゆきぬビールのために働いた俺
母木 良平
 世に生れ父婦有りてぞ何事も家庭築いて頑張事よ
町田 末則
 「俳句」
運動会重箱に伸ぶ箸の群れ
脇田 武志
 鎌立てて耳そば立つる響虫
桐野 眞実